特集10

新品種『YR晴信（はるのぶ）(96201YR)』、『YR恋豊（こいゆたか）』のリレー栽培で高品質寒玉キャベツを出荷

JA佐久浅間
御代田支所　高山 修浩

1.JA佐久浅間の概要

JA佐久浅間の管内は本州のほぼ中央に位置し、長野県における東の玄関口となります。北は噴煙たなびく浅間山、南は八ヶ岳の高峰が連なり、さらに東は妙義荒船佐久高原国定公園、西は夕日に映える蓼科山を望むことができます。一帯には県下四つの平らの一つ佐久平が広がり、青く澄んだ空気と美しい豊な自然に恵まれた地域です。

耕地は標高500～1,300ｍにあって、昼夜の気温差が大きく作物には適した気候が特徴です。管内を南北に貫く千曲川は、詩情豊な流れで昔から人々の暮らしを潤してきました。現在でも水質は高水準に保たれ、その豊富な水量により肥沃な耕地を形成しています。

当地区ではこのような恵まれた自然環境や気候、立地条件を生かし、野菜を中心に米穀、果樹、花き、キノコ、畜産物など300品目に上る生鮮農畜産物を生産しており、これらの総合供給産地であるＪＡ佐久浅間は全国市場からも注目を集めています。

御代田支所は浅間山の麓、標高600～900ｍに位置しています。以前からハクサイ、レタス、サニーレタス・Ｇリーフレタス、キャベツ、チンゲンサイ、ホウレンソウ、シュンギク、スイートコーンおよび辛味大根を中心に栽培出荷を行っていますが、他産地と同じように高齢化が進み、現在の生産量は最盛期の半分ぐらいに減少しています。

2.管内のキャベツ栽培

約25年程前からキャベツの作付が本格的に始まり、年毎に生産量が増加しましたが、平成に入り高齢化が進み、また価格低迷が続いたことから作付面積は減少してきました。平成12年からは中京中心に8月出荷の寒玉キャベツの契約販売（指定品種使用）も始まり、徐々に生産量も増えてきましたが、品種的な栽培の難しさや契約の低価格により、指定品種から比較的作り易い稜山２号に変わり、契約も打ち切りになりました。現在では生産者の固定、中国人研修生制度の導入、栽培技術の向上により、生産量の減少には歯止めがかかったと思われます。

3.現在のキャベツ品種の問題点

①株腐れ病、ベト病に強い品種

春出荷用キャベツでは、現在主力で使用している品種が若干株腐れ病、ベト病に弱い傾向がみられ、現状生産者の努力で克服しています。これらの病害に強い品種が求められています。

②耐暑性強く作りやすい品種

夏出荷用キャベツでは暑さに強い品種が求められています。栽培が難しく、また管理も手がかかる作型のため作付面積は減少しています。

③菌核病、バーティシリウム萎凋病、すそ枯れ病に強い品種

秋出荷では菌核病、バーティシリウム萎凋病、すそ枯れ病の発生が多くなります。これらの病害に強い品種が求められます。

▲ 筆者と箱詰された『YR晴信』

▲ きれいに箱詰された『YR晴信』

▲ 筆者と収穫適期の『YR晴信』

▲ 揃いがよく病気に強い『YR恋豊』

4.期待される新品種『YR晴信』と『YR恋豊』

本年度品種試験を行った結果、『YR晴信』と『YR恋豊』はある程度各種の問題をクリアーできそうで、今後期待できる品種と感じました。特に『YR晴信』は早出しの作型で、『YR恋豊』は中盤以降からの適性を持っているように感じられ、これらの品種によるリレー出荷が可能ではと思われました。実際に試験栽培した生産者からは以下のような声が挙がっています。

<YR晴信（96201YR）>

①従来の品種と比較し生育が遅いが、出荷が集中せず余裕をもって箱詰めができた。もう少し早生性があればもっと良いとの事。
②球の形状が扁平球で箱詰め、収穫作業が楽にできた。
③従来の品種に比べ、病害に強く薬剤散布が楽になった。（農薬残留問題の関係もあり安心できる）
④外葉がコンパクトで栽培しやすい。

春作品種として使用
播　種　期：2月下旬から5月中旬頃まで
育苗期間：25日から30日
定　植　期：3月下旬から6月中旬まで
生育期間：80日から70日で収穫
収　穫　期：6月下旬から8月中旬まで

<ＹＲ恋豊（E 8079YR）>

①外葉がコンパクトで立ち葉のため密植がきき、薬剤散布が容易にでき、効果が高いように感じた。
②球の形状が扁平で箱詰め作業が楽にできた。
③外葉がコンパクトのためか、従来の品種より若干肥料（追肥）がいるように感じた。
④従来の品種に比べ、地際からの長さが短いため、病害に強く、薬剤散布のローテーションが組みやすかった。
⑤後半球伸びの良い品種ではないか？

春作品種として使用
播　種　期：5月上旬から7月10日頃まで
育苗期間：20日から25日
定　植　期：6月上旬から8月10日まで
生育期間：80日から70日で収穫
収　穫　期：8月上旬から10月下旬まで

YR晴信

YR恋豊

5.さいごに

今後も、消費者から信頼（安全・安心）されるキャベツ産地を目指し、品質のよいキャベツを生産出荷し一つでも多く良い話を聞きたいと生産者、JA共に考えております。種苗会社にもさらに作りやすく、美味しい、安心な品種の開発を今後もよろしくお願いします。